

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報

事業番号		0145/150705/08/01	事業の種類	4			
年度	19	事務事業名	お元気コール事業	作成日	平成21年1月20日	重要度	5
予算事業名		しあわせ基金		担当部課名	健康福祉課		
政策名		すこやかに暮らせる、心かようまちづくり					
施策名		高齢者福祉		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規		老人福祉法					
事業の目的	誰のために(具体的に)	75歳以上の一人暮らし高齢者					
	誰(何)を対象として	安否の確認					
	意図(どのような状態にしたいのか)	定期的な電話を用いた安否確認により、一人暮らし生活の安心を得る。					

2 事業の概要 Do

実施の概要		週1回、電話による音声案内により、対象者の安否確認を図る。				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	延べコール回数	回	38	52	52	52
	年度末時利用人数	人	58	84	85	85

3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.010	0.010	100.0	0.050	500.0	-	-	
	臨時職員			-	-	-	-	-	
支出内訳	人件費	1,047,368	799,614	76.3	1,174,635	146.9	697,572	59.4	
	事業費	4,482,316	306,313	6.8	308,571	100.7	395,560	128.2	
	合計	5,529,684	1,105,927	20.0	1,483,206	134.1	1,093,132	73.7	
財源内訳	国庫支出金			-	-	-	-	-	
	県支出金	1,700,000		-	-	-	-	-	
	市債			-	-	-	-	-	
	その他			-	-	-	-	-	
	一般財源	3,829,684	1,105,927	28.9	1,483,206	134.1	1,093,132	73.7	
合計	5,529,684	1,105,927	20.0	1,483,206	134.1	1,093,132	73.7		

4 評価指標

【有効性】

指標名1		利用率の増減							
指標説明(式)		利用率の増減(利用者/対象者)							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
回	目標		0	-		-		-	
	実績	7.48	10.01	133.8	9.84	98.3			
指標名2		年度末における利用者数の増減							
指標説明(式)		年度末における利用者数の増減							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
人	目標			-		-		-	
	実績	58	84	144.8	75	89.3			

【効率性】

指標名1		利用者一人1回当たりのコスト							
指標説明(式)		総経費／利用者数／利用回数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	59	71	120.3	71	100.0		-	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	一人暮らし高齢者の安否確認は、安心して在宅生活を送るために必要である。	5	5
	市民ニーズ	一人暮らし高齢者にとって、週に一度の定期的な安否確認は、安心して在宅生活を送る上で必要。		
有効性	成果目標(改善)達成度	家族との同居、転出、元気になって必要なくなった、デイサービスの日と重なる等の理由により、19年度中に利用者は大幅減となった。	3	3
	市民サービス	電話さえあればサービス利用できるため、効率的で簡単に利用できる。		
効率性	コストの節減	ランニングコストは保守委託料、通信運搬費及び消耗品程度の安価な費用で、利用者については費用は全く発生しない。	4	4
	手段の最適性	家庭用の電話機で安易に利用、手軽に導入できる。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	理由は様々であるが、H19中に利用者数は大幅に減となった。また、民生委員に協力依頼し、75歳を迎える対象者に利用希望調査を依頼しているが、利用者数は伸び悩んでいる。

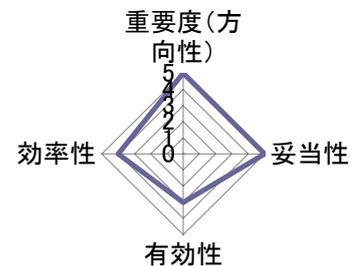
7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	民生委員協議会で広報を行う等、安否確認事業の普及啓発に努める。
H19→H20予算反映額		

(2) 20年度の実施方針

安否確認の有効的な1つの方法であり、事業継続実施



検討の有無	-
総合指標	24.5